

## 解題

### 東福寺区有文書

#### 【東福寺村について】

東福寺村は江戸時代から明治二十二年までの村名。現在は長野市篠ノ井東福寺となっている。松代藩領である。村高は江戸時代の初期には一四〇〇石、幕末には二一〇〇石であった。枝村として中沢村・上庭村・北小森村があった。その後、中沢村は分村した。千曲川に近接していることから、その水害に多く見舞われた。このため、千曲川の流れを北に移す事業がなされるが、このために東福寺村は、千曲川を挟んで村が分かれることとなる。

明治以降、中沢村と合併し東福寺村として存立。明治二十二年には小森村を合併する。昭和二十五年に篠ノ井町に合併してその一部となる。昭和三十四年に篠ノ井市、昭和四十一年には長野市と合併して今日に至る。（『角川日本地名大辞典 長野県』 角川書店 一九〇〇年）

#### 【伝来の経緯】

本文書群は、長野市篠ノ井の長野市立篠ノ井公民館東福寺分館に伝えられた文書群である。現在は当館が東福寺分館から寄託を受けている。この文書群は、当館が寄託を受ける前にすでに概略的な資料整理がなされている。この成果をもとにした本も編集・出版されている。（『千曲川瀬直しにみる村人の暮らし 松代領東福寺村の古文書』（監修／岡澤由往 長野市立篠ノ井公民館東福寺分館 一九九四年）

#### 【文書群の特徴】

本文書は、千曲川瀬直しの概要が分かることで重要である。また藩政時代の藩と村との役割の分かる文書が多く含まれている。また、近代における戸長役場や村役場文書も含まれ、豊富な内容である。